～防除室だより vol.76～

病害虫防除室
2025 年 7 月 9 日

カボチャ果実の病害その２

防除室だより Vol.55 で「カボチャ果実の病害」として、疫病、炭疽病、軟腐病を掲載しました。今回は立枯病による被害果と、それに類似した障害について見分け方をまとめてみました。

１．カボチャ立枯病

軽症の場合、赤褐色～黄褐色の小病斑で表面にワックス層を残すため、外観上は目立たず、表面上カビの発生は見られませんが、果実内部ではスポンジ状に腐敗が進行しており、分生子も旺盛に形成されています。果実内部の崩壊が進むと大きく陥没し、果実表面にもカビが生じてきます。種子伝染します。

２．クリスタル症状

外観症状は、立枯病と似ていますが、円形を呈さず、不整形でやや陥没し、果実断面を見ると、果皮と果肉の間に白い層が形成されて陥没部で果面に現れています。健全な果肉は黄色色素を含む細胞ですが、白変部はデンプン粒が過剰に蓄積し、細胞が壊れています。被害果は、苦味、青臭い腐臭がして、食用には適しません。果実肥大期の水分不足が原因とされています。

３．日焼け果

円形が複数重なったような不整形の斑点があり、表面のひび割れとともに、局所的にカビを生じていましたが、果実断面を見ると、障害はごく浅い部位に限られていました。果皮は、重度の日焼けを起こしており、斑点は日焼け側に生じていました（白矢印）。日除けが必要です。